

2004年度 第1回特許セミナー

## 「学生のための楽しい特許戦略

—楽しんで特許をとって儲けるためには—

開催日：2004年6月30日(水) 14:00～16:00

会場：青山学院大学 相模原キャンパス F棟 204教室

会場案内図は青山学院大学 web サイトをご覧ください。

お車でのご来場はお断りします。

共催：青山学院大学総合研究所自然科学研究部

青山学院大学理工学部

参加希望者は下記までご連絡お願いいたします。当日参加も歓迎いたします。

お問い合わせ先：青山学院大学 相模原事務局 研究支援ユニット

TEL：042-759-6056 (ダイヤルイン)

E-mail：sawabe@ee.aoyama.ac.jp

### <プログラム>

司会：研究支援ユニットマネージャー 小松 繁

14:00～

開会の挨拶

14:05～

挨拶

総合研究所自然科学研究部長 降旗 千恵

14:10～

「特許申請のあれこれ」

機械創造工学科 教授 竹本 幹男

学生が特許を申請するには、特許費用と申請書、特許アドバイザーと弁理士、TLOとは、青山学院大学 理工学部 とTAMA-TLOの関係、他私立大学における知的財産政策、特許の機関帰属原則、特許庁の認める学術団体とは、新規性喪失の例外措置とは？受託研究における特許権の帰属先 など本学理工学部の先生や学生が特許申請しようとし

たときの注意事項や具体的方法のあれこれ

14 : 35～

「儲からない特許では申請できなかった話 ―電動工具を例に―」

機械創造工学科 助教授 渡辺 昌宏

研究室で開発している色々な機構や装置をわかりやすく解説します。はじめに、振動や波動を利用して水中を滑らかに移動するためのアクチュエータの開発（特許がとれたかもしれない機構でしたが、教員の判断ミスで申請しなかったケース）の説明をします。次に、実用的なアイデアとして、ハンドドリルの反動トルクを低減させる機構を開発したが、儲かりそうもないので申請できなかったケースを説明します。

15 : 05～

「壮大な思想に基く金のなる特許

―21世紀にはどんな技術が必要とされるか？ “光ファイバー超音波検出システム”―」

機械創造工学科助手 長 秀雄

21世紀は、20世紀に建設した大型社会インフラ構造物（橋、ビル、発電設備、タンクなど）を安全に運用するかが課題である。そのためには新しいメンテナンス技術が必要である。メンテナンスの基本は“状態の把握”であり、センシングである。そこで、“電気”に頼ったセンサから“光”を使った新しいセンサを開発した。その開発の過程を説明します。

15 : 25～

「21世紀 COE プログラム研究成果に基くややマニアックな特許

―くっつき強さをどうして測るか？なんの役に立つのか？―」

機械創造工学科研究生・旭ダイヤモンド工業(株)技術研究所

池田 隆二

膜のくっつき強さを測る方法は 200 種類以上提案されているが、利用できるものはほとんどなく多くの人困っている。このようなニーズにこたえるため、レーザー衝撃波を利用した新しい非接触評価法を開発して特許申請を行った。COE プログラムのマニアックな研究から生まれた商業的に成功する（ハズ）特許について説明する。

15 : 45～

質疑応答

16 : 00～

閉会の挨拶

機械創造工学科教授 竹本 幹男